

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 天龍寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・天龍寺は大堰川の左岸、亀山の山麓に位置することから、西側及び南西側は嵐山、亀山及び小倉山が借景となり、北側は天龍寺の竹林に囲まれている。
- ・勅使門付近からは、周囲の塔頭や樹木の間から東側の長辻通沿いの建築物等が垣間見える。



1-1 参道から庫裏への眺望
：嵐山、亀山、小倉山を借景とし境内建築物以外は見えない。



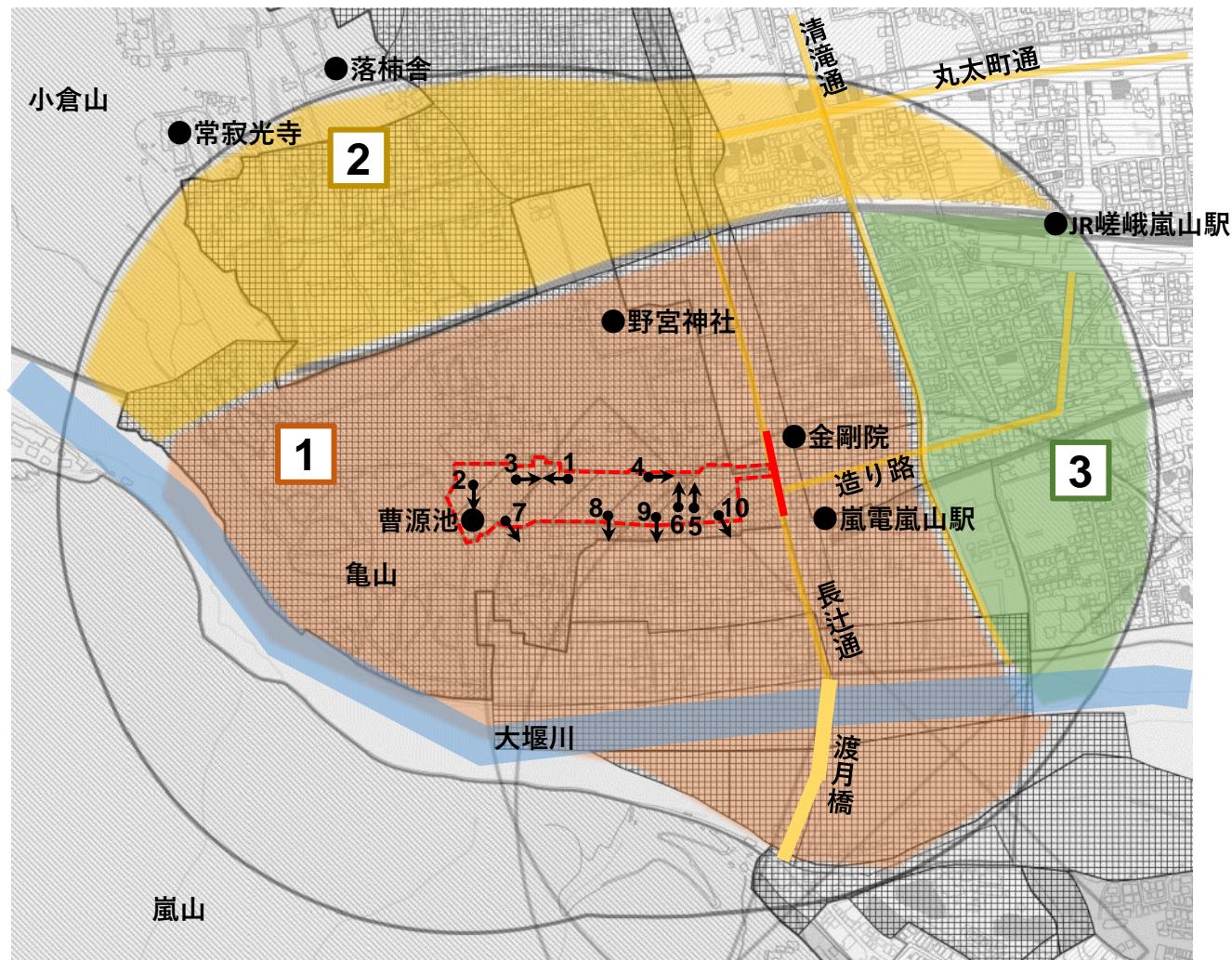
1-2 小方丈から曹源池への眺望
：嵐山を借景とし境内建築物以外は見えない。



1-3 方丈受付前から東への眺望
：境内建築物以外は見えない。



1-4 慈濟院前から東への眺望
：塔頭の後ろに境外の建築物が見える。



1-5 妙智院前から北への眺望
：塔頭の後ろに境外の建築物が見える。



1-6 勅使門の西側から北への眺望
：塔頭の後ろに境外の建築物が見える。



1-7 法堂から南東への眺望
：塔頭以外の建築物は見えない。



1-8 寿寧院と等観院の間から南への眺望
：塔頭及び住宅が見える。



1-9 寿寧院前から南への眺望
：塔頭の後ろに境外の建築物が見える。

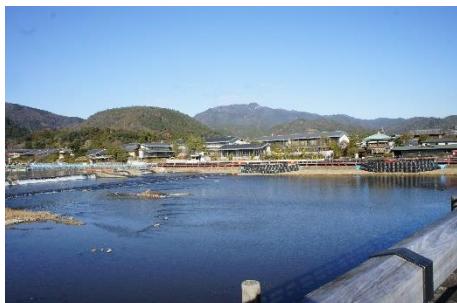


1-10 妙智院前から東南東への眺望
：塔頭の後ろに境外の建築物が見える。

2 天龍寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・嵐山、亀山、小倉山を背景に、大堰川の流れ、社寺境内の緑など、自然豊かな景観を有する。
- ・長辻通沿いは和風外観で統一された二階建ての商店と住宅が混在する。
- ・造り路は天龍寺生垣を西方向正面に望み小規模な商店が並ぶ。
- ・長辻通、造り路の沿道以外は、住宅地が広がっており、清滝道以东では中層マンションも散見される。



2-1 渡月橋から北への眺望
：川沿いに料亭などが並ぶ。



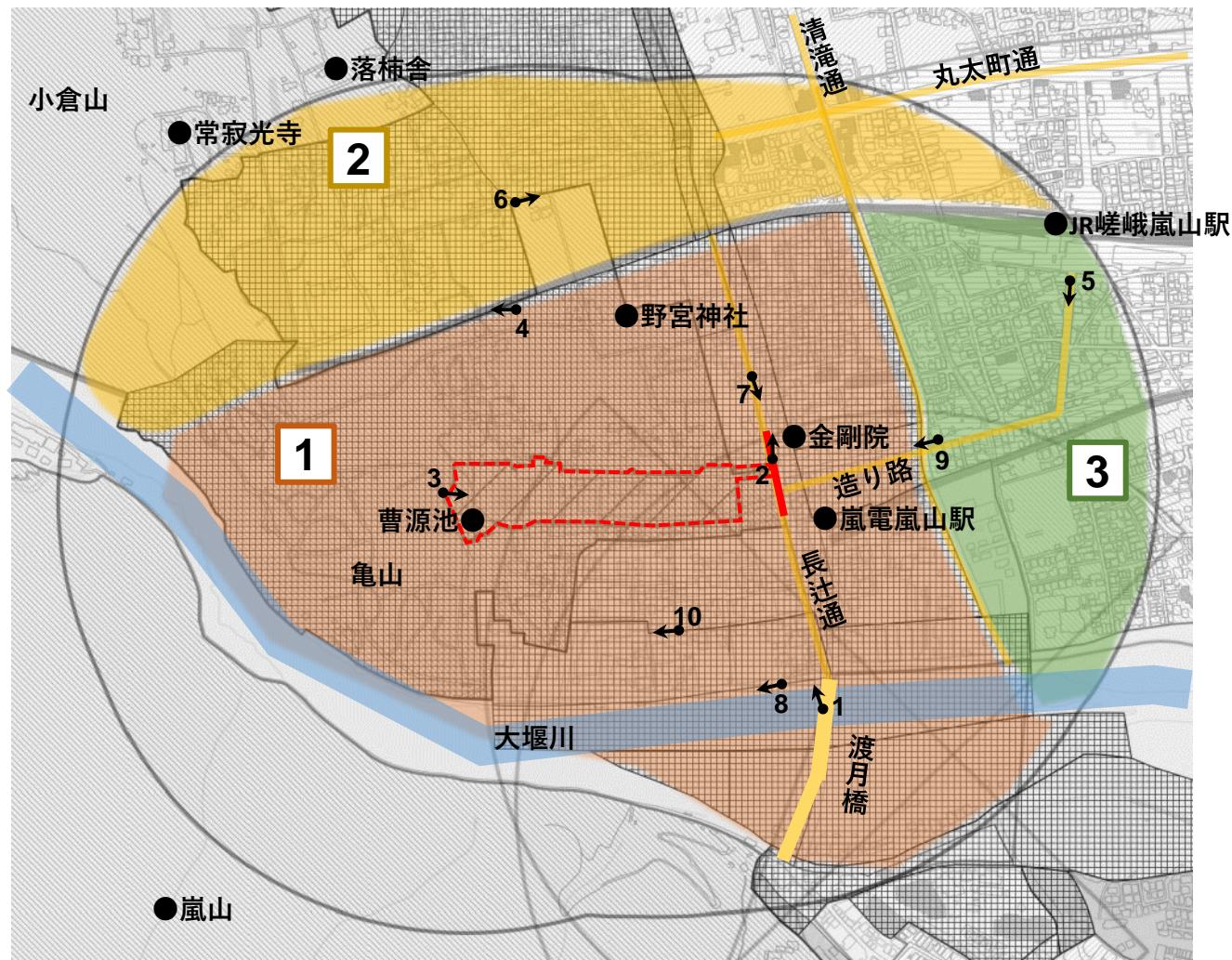
2-2 天龍寺付近から北への眺望
：天龍寺の向かいに商店が多く並ぶ。



2-3 曹源池庭園の高台から東への眺望
：市街を見渡すことができる。



2-4 天龍寺北通用口付近から西への眺望
：生垣や竹垣が設えられている



2-5 JR嵯峨嵐山駅南側から南の眺望
：小規模な商店が並ぶ



2-6 JR線路北筋から東の眺望
：竹藪と低層住宅が並ぶ。



2-7 長辻通から南への眺望
：小規模な商店が並ぶ。



2-8 三条通渡月橋付近から西への眺望
：料理店や旅館が並ぶ



2-9 造り路三差路から西への眺望
：小規模な商店が並ぶ



2-10 天龍寺芒ノ馬場町から西への眺望
：生垣や木塀を設えた和風の住宅が並ぶ

3 天龍寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 天龍寺周辺

ア エリアの歴史等

- ・嵯峨は平安期から記載のある地名で、小倉山の東方で大堰川の左岸の広域を嵯峨・嵯峨野と呼んだ。風光明媚なため天皇や大宮人たちの遊猟や行楽地であった。
- ・藤原定家(1162-1241)がこの地に小倉山荘を造営し、小倉百人一首を撰んだと伝えられ、時雨亭跡とされる遺跡が数か所に残っている。
- ・「天龍寺門前」は江戸期から明治初期に見える集落名で、天龍寺創建の鎌倉期から続く門前町である。

イ 町並みの特徴

- ・長辻通沿いは料理屋、飲食店及び土産屋などの商業系建築物が並び、和瓦等の平入屋根で高さが揃っている。商店の看板等の配色に配慮がなされ、景観に調和されている。
- ・天龍寺入り口付近は和風の塀や生垣を配する和風低層住宅が並び、趣のある一画を成している。
- ・洪水に度々見舞われていることから、道路面より宅地面の方が高いところが多い。
- ・長辻通に近い造り路沿いは小規模な商店が住宅と並ぶ。造り路の沿道以外は、低層の小規模住宅や中層マンションが混在する。
- ・天龍寺北側は竹林が広がり、建築物はほとんど見られない。

文化財等：大河内山荘大乘閣、中門、滴水庵

ウ 景観形成方針	天龍寺周辺特別修景地域	風致地区	歴史的風土特別保存地区
	世界遺産の天龍寺周辺では、天龍寺境内の緑豊かな景観と一体となった町並みを保全する。	山、川等の自然景観と、渡月橋や社寺等により、全体に豊かな緑の中に勾配屋根をもつ和風建築が控え目に見え隠れする。	天龍寺等の歴史的建造物等と一体となる名勝嵐山等の自然環境、保津川の清流の保存。

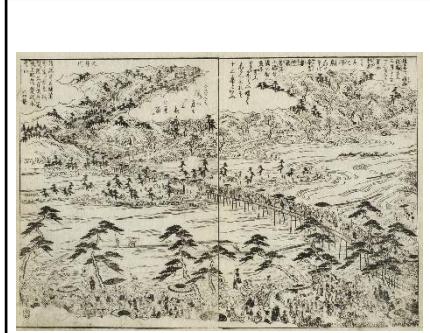
エ 建築計画等に求める配慮事項

敷地規模を維持し、道路側には生垣又は和風塀を設けることを基本とし、建築物は日本瓦ぶき和風外観とする。

自然と和風建築物が調和した歴史的・自然的環境の保全に重点を置く。

歴史的建造物の周辺では建築物その他の工作物の規制。渡月橋周辺では観光施設の規模及び配置の規制に重点を置く。

参考写真等



3-1 都林泉名勝図会 寛政11年(1799年)より「法輪寺・大井川」



3-2 商店が並ぶ渡月橋北詰から北への眺望



3-3 小規模な商店と住宅が並ぶ長辻通から東への眺望



3-4 天龍寺の塔頭の土塀が続く町並み

2 天龍寺北側

ア エリアの歴史等

- ・江戸期の天龍寺門前(天龍寺村)の北端にあたる地域で、北は嵯峨街道を通じて北嵯峨村の南端となる。天龍寺村とは極々近い隣村で、農産物の交換や売買も行われていた。
- ・図3-5は江戸後期の「都名所図会」から「清凉寺」の門前風景である。清凉寺の門前町が形成されて街道沿いに集落も描かれており、本地域とは嵯峨街道を介しての地域社会が形成されていたと考えられる。

イ 町並みの特徴

- ・長辻通西側のJR線路北側は線路沿いに竹林が点在し、低層住宅が並ぶ。
- ・山裾には、常寂光寺や二尊院、落柿舎など歴史的建造物が数多く立地しており、その周辺には低層住宅や畑地が混在している。
- ・住宅には生垣、板壁や土塀が配され、緑地が多く取られている。道路は狭く散策路の趣がある。
- ・丸太町通近くに公営住宅や老人ホームといった中規模建築物があり、生垣や板塀が配されて落ち着いた趣を保っている。
- ・丸太町通沿いは中層のマンションやビルと低層住宅が混在した町並みとなっている。幹線道路からはずれると、住宅地が広がっている。

文化財等：常寂光寺塔婆(多宝塔)、落柿舎

ウ 景観形成方針	北嵯峨・嵯峨野特別修景地域	風致地区	山ろく型建造物修景地区
	生垣、樹木及び石垣の自然的要素による「野のイメージ」を保全する。	愛宕街道は町家や民家が歴史的景観を伝えており、清凉寺門前は伝統的な町家が軒を連ねている。	西山の山々の内縁部には戸建て住宅を中心とした良好な住宅地が広がっており、これを維持増進する。

エ 建築計画等に求める配慮事項

特に道路側には生垣等の植栽帯を設け、建築物は日本瓦ぶき和風外観とする。

嵯峨野の街道景観との調和など、風致の維持を図る。

歴史的資産等の周辺において、勾配屋根を設け、壁面の色彩を暖色系の自然素材色とするなど和風基調の町並み景観とする。

参考写真等



3-5 「都名所図会」安永9年(1780)より「清凉寺」



3-6 竹林が点在する。市営住宅を望む丸太町通から西への眺望



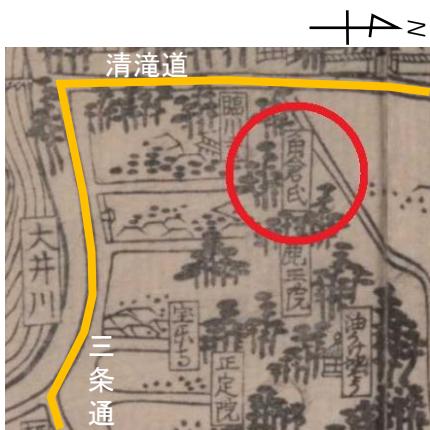
3-7 丸太町通から東への眺望



3-8 丸太町通の嵯峨小学校前から北への眺望：清凉寺を望み、住宅が並ぶ

4 天龍寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

3 清滝道東側		参考写真等	
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> 江戸期の天龍寺門前(天龍寺村)の東部、概ね瀬戸川(芹川)以東の地域となる。嵯峨天龍寺角倉町は、角倉了以(1554-1614)の祖、徳春が本地に住した後、嵯峨野に隠居し土倉を設え「角倉」を家号としたとされることが由来とされる。 角倉了以は、桂川の浚削工事を行い息子である素庵(1571-1632)と舟運管理のために本地に邸宅を設けていた(図3-9)。 		
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> このエリアは戦後市街化が進んだ住宅地である。 JR嵯峨嵐山駅から南向きの通り及び造り路沿いの嵯峨商店街には銀行や郵便局、商店、生活用品を扱う店舗兼用住宅、観光客向けの小規模の商店が混在して並ぶ。 JR嵯峨嵐山駅から北側や、嵯峨商店街の通り以外の住宅地は、低層住宅が連なる落ち着いた町並みを形成している。比較的新しい建築物も見られる。 三条通沿いは、住宅など低層建築物の多い町並みとなっている。 		
ウ 景観形成方針	風致地区	山並み背景型建築物修景地区	岸辺型建造物修景地区
	山、川等の自然景観と、渡月橋や社寺等により、全体に豊かな緑の中に勾配屋根をもつ和風建築が控え目に見え隠れする。	嵐山や小倉山、さらに北山に囲繞された地形を呈しており、これらの山並みと調和した落ち着いた感じのある町並み景観の創出を図る。	河川敷からは、京都では貴重な嵐山をはじめとする広がりのある眺望景観を楽しむことができ、こうした良好な岸辺景観を阻害しない。
エ 求める建築計画等に配慮事項	自然と和風建築物が調和した歴史的・自然的環境の保全に重点を置く。	建築物は背景の山並みに調和するよう、勾配屋根を設置する等屋上のデザインと壁面の色彩に配慮するとともに、生垣等敷地内の植栽を誘導する。	勾配屋根等を設ける、壁面に暖色系の自然素材色を使用するなど、桂川の自然景観との調和を図る。さらに外壁面等の分節化を図り、河川や道路に面して植栽等を誘導する。



3-9 「改正京町繪圖細見大成 洛中洛外町々小名全」天保2年(1831)



3-10 小規模な商店が並ぶ造り路からJR嵯峨嵐山駅への眺望



3-11 三条通から東への眺望 保養所や民家が並ぶ。



3-12 低層住宅や中規模マンションと商店が混在する造り路 三差路から北への眺望

- 3-1 「都林泉名勝図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 「都名所図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-9 「改正京町繪圖細見大成 洛中洛外町々小名全」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)